

I 大学は今

■学科長挨拶

井戸田秀樹 教授 (S58)



今年度から建築・デザイン工学科の学科長を務めることになりました。光鯨会の皆様、よろしくお願いたします。学科の近況ですが、この4月からデザインプログラムに井上雅弘教授が着任しました。プロダク

トデザインのプロフェッショナルです。また、学部には84人の新1年生が入学しました。うち、女子学生は例年よりやや多く32名。建設業界に新しい女性の感性を吹き込んでくれるものと期待しています。大学改革関連では、大学院一貫教育を中心にした6年制のプログラムの新設が検討されています。今後も、変わらぬご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

■新任教員紹介

井上雅弘 教授



初めまして。この4月に着任しました井上雅弘です。それまでは(株)東芝のデザインセンターで34年間インハウスデザイナー一筋の生活を送ってきました。一筋とは言っても、プロダクトデザインを中心に、家電、デジタル機器などのB2C分

野から、産業、医療機器システム(右下/重粒子線治療装置)といったB2B社会インフラ分野まで複合電気メーカーの多様性を活かしながら幅広い領域でのデザインを経験しました。またその間には、イタリア留学やシンガポール、アメリカでも勤務し、様々な地域に根ざしたマーケティング活動にも携わることができました。



こうした企業での経験を「学びの場」で活かせるよう、これからは二つのことを念頭に、さらに実践的なデザインの研究と教育を進めていく所存です。まずは建築をはじめとした他学科と連携し幅広い問題解決能力を身につけることです。社会の抱える問題は複合化・複雑化し多くの専門家の連携による解決が求められています。個々のプロダクトレベルのみならず、都市や地域レベルでの

ソリューションが求められることも少なくありません。工業大学としこの特徴を活かし、様々な分野の専門家と協力し、さらにはリーダーとして工学的な問題解決のできるデザイン人材を育てていくことを一つの狙いとしています。

二つ目がグローバル化への対応です。かつてNo.1と称された日本のものづくりも今では韓国や中国にその座を奪われ、なかでも私の属した電機業界は最もその影響を受けている業態の一つです。そうした状況から日本のものづくりを再生させるお手伝いができればと思います。これに関してはデザイン先進国イタリアのものづくりに学ぶためにミラノにおける学生の短期インターンシップを今年度からスタートさせるなど具体的な活動を計画中です。

先日、中国の浙江大学で中国のエリートたちを教える機会を頂きました(右下)が、恐ろしいほど優秀でかつ学ぶ意欲の高い彼らと、これからの若い世代は戦っていかなければなりません。欧米に限らずアジアなど新興国も含めたグローバルな舞台で勝負が挑める、しなやかで逞しい若者を育てていきたいと思ひます。



今後とも皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

■近況報告

夏目欣昇 助教 (H15) 学生の活躍

学生たちは、作品制作、講評会企画、建築旅行、ボランティアなど、様々な課外活動に勤しんでいます。この1年間の主な活躍をご紹介します。

【建築系学生の活躍】 各種建築コンペにおいて紹介しきれないほどの入賞を果たしました。卒業設計に注目しますと、戸谷君は光鯨会賞とJIA 東海卒計コンクール金賞の二冠に輝きました。独特のアイデアと感性にもとづき名駅西地区の再生を描く意欲作です。村山君は からくり屋敷で dipcolle 大賞を獲得しました。青山君・大村君は海外のオープンコンペにおいて日本勢最上位入賞という快挙を成し遂げました。そのほかの顔ぶれも多彩であり、次への期待が高まるばかりです。

【デザイン系学生の活躍】 卒展（卒業制作展）が今年も 3/1~4 に名工大で開催されました。JIDA 訪問講評会(3/2)では、土川さんと山下くんが表彰されました。この卒展プロジェクトはデザイン系学生の自主運営です。1 年程前から企画を立ち上げてテーマ構築、設営・広報・記録の作業を分担して遂行、仕上げとして作品集を自費制作しました。このノウハウを次年度へ引き継いでプロジェクト完了です。将来は協賛を得て学外展示や作品集充実を図りたい、と意気込みを示しています。

■訃報

河田克博 教授 (S50) 内藤昌先生のご逝去を悼む

すでに多くの方がご存知のように、本学名誉教授で、建築史学の構築・発展に大きく貢献された内藤昌先生が、平成 24 年 10 月 23 日に老衰のため逝去されました。その数日前の 10 月 8 日に満 80 歳の誕生日を迎えられたばかりでした。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

東京工業大学ご出身の先生は、昭和 38 年 4 月に赴任されて平成 5 年 3 月に退官されるまで丁度 30 年間名古屋工業大学で、研究・教育さらに大学運営に邁進されました。この間、実に多くの学生が先生の教えを受け、卒業後は社会の多方面で活躍されていることは周知のとおりです。

内藤先生の研究・教育に対する情熱はとてんも強烈で、たとえば夏の太陽光であり、その熱さにヤケドを負った学生も多数おられると思います。しかし、先生は名工大とその教え子が大好きでした。光鯨会の総会・懇親会にもほとんど顔を出されていました。少年のように一途で真摯な研究・教育への姿勢は、優秀な名工大建築学科卒業生を社会に送ろうとする気持ちの裏返しだと思います。

■JIA 東海学生卒業設計コンクール 2013

金賞 戸谷奈貴君 M1 ※1
銀賞 福田晃司君 M1
佳作 大岩良平君 M1
佳作 千葉基博君 M1

■dipcolle2013 : 第 10 回東海地区卒計合同展

大賞、遠藤幹子賞 村山明宏君 M1 ※2
藤村龍至賞 平井仁康君 M1
栗原健太郎賞 坂井文也君 M1
佐々木勝敏賞 大岩良平君 M1

■2012 年度日本建築学会設計競技

タジマ奨励賞 鈴木翔麻君 M1 ※3

■第 4 回 AC-CA 国際建築コンクール

3 位入賞 青山享央君・大村拓也君 M2

■JIA 東海支部設計競技

学生の部 銅賞 鍋倉健哉君 B4

一般の部 銅賞 青山享央君 M2

■第 1 回大東建託賃貸住宅コンペ

学生特別賞 佐野智哉君・田中恵君 B4

■JACS2012 住宅設計コンペ

佳作 春日功助君 M1

■都市と空地コンペ vol.1

優秀賞 林宏樹君・高橋純平君・成田康輔君・小柳翔太君・林あずみさん・三谷友紀さん・ミンキョソク君

■第 7 回愛知建築士会学生コンペ

優秀賞 北村有希博君 M2・入江静香さん M2・大岩良平君 M1

優秀賞 木村陽子さん M2・深澤睦美さん H23 卒・遠藤彰君 H25 卒

佳作 内藤雄太君 M2・木田脩太君 M1

佳作 佐野智哉君・田中恵君 B4

■第 2 回 E&G デザイン学生コンペ

最優秀賞 福元達也君・高田悦子さん・小室暁子さん B4

■第 3 回 JPM 「夢の賃貸住宅」学生コンテスト

全国賃貸住宅新聞社賞 大村拓也君 M2・田中雄基君 H25M 卒

■キルコス国際建築設計コンペティション

入江賞 銅賞・加藤+ディーマー賞 銀賞・栗原+岩月賞 銅賞・佳作

光嶋賞 銅賞・佐藤賞 銀賞・佳作 永山賞 佳作 松本拓也君 M2・ほか ※4

遠藤賞 銀賞・南賞 銀賞 大村拓也君・松本拓也君 M2

加藤+ディーマー賞 佳作 大岩良平君・鈴木翔麻君 M1

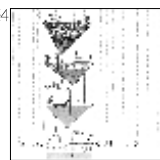
入江賞 佳作 市井暁君 B2 遠藤賞 銅賞 戸谷奈貴君 M1

北川賞 佳作 倉田駿君 B4 坂下賞 銅賞 田中雄基君 H25M 卒

■JIDA 中部ブロック : 日本のデザインサザイ協会

中部ブロック賞 土川舞さん M1

中部ブロック賞 山下翔平君 M1



昨年の 10 月 27・28 日には、横浜にて通夜・葬儀が執り行われ、また改めて名古屋にて本年 3 月 16 日に「偲ぶ会」を開催し、名工大・東工大・愛産大関係の方々に多数ご参加いただきました。「偲ぶ会」では、名工大赴任当時からの内藤先生を中心とした写真を放映。皆様、当時の頃を思い出しながら、文字通り、内藤先生との関わりを偲びました。

先生のご功績は、改めて言うまでもありませんが、実に膨大なものがあります。とりわけ、主の復元は、時間をかけて精緻な考察をしたもので、昨今怪しい復元案がある中で、なお光り輝いています。また、博士後期課程設立にあたり先頭に立って尽力されました。なお最後に、内藤先生の膨大で貴重なご蔵書が、名工大附属図書館に寄贈されましたことを申し添えます。



II 卒業生は今

■本部

①犬飼高嘉 (H17) (株)伊藤建築設計事務所

大学院を卒業して6年がたち社会人としても充実した日々を過ごしています。現在はささしまライブ 24 地区内にできる中京テレビ放送新社屋の設計を行っています。土地の取得から関わり早2年半がたちましたが、東日本大震災の直後ということもあり、意匠・構造・設備についても最大限のBCP対策を行った次世代型の放送局を計画しています。さらに2016年には、ささしまライブ地区も街自体ができあがり、名古屋駅の再開発とともに魅力的なまちづくりに貢献できるようなデザインを目指します。このプロジェクトについても言えることですが、施主であったり施工者であったり、関係者には多くの名工大の卒業生が関わっています。ひとつの建物をつくるには「人と人との関係性」や「その建物に対する想い」が重要にな

ると思います。意匠だけでは建物がたたないように、社内だけの関係だけでなくとても広い人との関わりの中で、ひとつの建物ができあがります。その中であいつが言うのだったらやってみようと思われるような設計者を目指して今後もがんばっていききたいと思います。



145mの空に向かって伸びる放送塔

②坂井愛理 (H20) 名古屋市役所

名古屋市役所に入庁して4年目になります。元々、建築設計をやりたくて、大学卒業後は建築設計事務所で働いていましたが、もう少しプライベートの時間をもてる生活をしたいと思い、公務員に転職しました。転職する前は、公務員になったら、もう建築設計の仕事はできなくなるだろうと悩みましたが、いざ入庁したら市設建築物の営繕業務を行う営繕課に配属となり、建築設計・工事監理の業務に携われることになりました。

営繕課では、本丸御殿をはじめとする名古屋城整備、新斎場整備、東部医療センター整備、東山動植物園等の整備といったプロジェクトや公園便所、コミュニティセンター、文化小劇場といった

市民の身近な建築物等の整備をしています。

ゆりかごから墓場まで、多種多様な用途の施設整備に携わることができるのは、名古屋市役所だからこそだと思います。

標準仕様書や建築工事監理指針といった書物と日々眺めっこしていますが、工事現場で学ぶことはとても多く、建築設計・工事監理の業務は机上の勉強だけではなく、現場での経験がとても重要だと実感しています。今後も、全力で業務に取り組んでいきたいと思っています。



④布村圭祐 (H20) 積水ハウス(株)

2008年に積水ハウス(株)に入社して、早5年が経ちました。設計として入社し、途中2年ほど申請業務を行う部署への出向を経て、現在はまた設計を行っております。私が所属する部署では、「シャーウッド(天海祐希さんのCMでご存知の方も多いかと思います)」と呼ばれる木造住宅の設計を専門に行っております。住宅ですので、規模としては平屋建から3階建、100~200㎡前後が多くなっております。ゼネコンや設計事務所と比べると、規模は小さいかもしれませんが、一つのご家族の家に係わる設計は私一人だけ。大変責任のある仕事ですが、その分やりがいのある仕事と感じております。物件量としては、毎月1~2棟のペースで増えていきますので、仕事に追われることも多々

ありますが、お引渡しをしたお客様の自宅に定期的に訪問したり、社内での設計コンペや、同僚の設計した住宅を見に行く勉強会等、ただ量をこなすだけでなく、楽しみもある職場環境です。

社会人として6年目に突入し、良い意味で肩の力を抜いて仕事を楽めるようになりました。また私生活では、昨年5月に結婚し、公私共に充実した日々を送っております。社内には、名工大の卒業生も多く活躍されておりますので、刺激を受け、頑張っていきたいと思っています。



■関東支部

①山田悦正 (S59) 清水建設東京支店建築第一部

12年前に東京支店に着任して以来、会社を代表する建設プロジェクトに工事長として参画してきた。2000年からダイナミックに変貌し続ける都心。そして、大丸有(大手町・丸の内・有楽町)の再開発に関わって7年の歳月が流れた。国・都・千代田区が動き、大手デベロッパーが支配し、大手ゼネコンがしのぎをけずる一大再開発エリア。巨大マネーと利権が渦巻く中で古いビルの取り壊しと新オフィスビルの建設が進む。これまで22の再開発事業が完遂し、およそ300万㎡の床面積が一新された。現在も9の再開発事業が建設中であり、これからも更なる再開発事業が目白押し状態である。どのプロジェクトもコスト・工期が厳しく施工難易度も高い。24時間作業は当たり前で大

手設計事務所の監理も厳しい。その上、どのプロジェクトも採算割れが大部分だ。それでもゼネコンは挑戦し続ける。建設を通して日本の未来に貢献するために。私の仕事もまだまだ続く。



②三宅敬史 (S59) 三菱地所レジデンス(株) 品質管理部

大学を昭和59年に卒業し、某住宅メーカーに入社、約10年注文住宅の現場と設計を経験しました。設計を担当していた景気の良い時期は、毎月多くの物件を工事部門に引き継ぐために、深夜遅くまで仕事をして、その後夜食を兼ねて飲みに行き、翌朝ボーとした頭で出社して、また深夜遅くまで仕事をするといった、若いときにしかできない生活をしていたことを思い出します。

その後三菱地所(株)に転職し、また10年ほど分譲戸建て住宅や分譲マンションの意匠設計をおこなっていましたが、現在は三菱地所(株)の分譲住宅部門が分社し、藤和不動産と合併してできた新しい会社である三菱地所レジデンス(株)に出向しています。品質管理部という部署に所属しており、不動産会社としての立場で、施工現場において施工

品質が確保されているかを確認する業務をおこなっています。施工会社にとっては、現場のことについて注文をつけるうるさい人間が一人増えるということで煙たがられる存在とは思いますが、お客様に満足いただける分譲マンションを引き渡すべく仕事にあたっています。また、日常の業務のほかに、過去に現場において床に使う乾式二重床システムでトラブルが起こったことから、社内にワーキンググループが発足されたのがきっかけで、不動産会社ではめずらしいと思いますが、ゼネコンさんの技術研究所などの協力を得て、現場での音響測定の実験や結果等をまとめたことなどを、ここ5年ほど建築学会で発表するといったこともしています。

③石田広交 (S63) 巴コーポレーション 鉄塔技術部

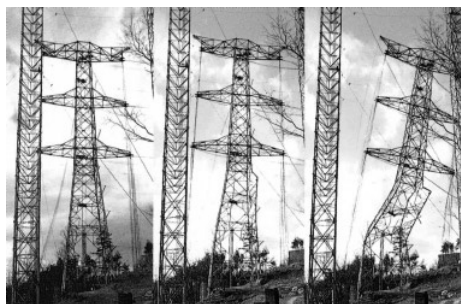
平成2年に博士前期課程を修了後、巴組鐵工所(現巴コーポレーション)に入社し、その後会社の国内留学制度を利用して、平成10年から3年間博士後期課程に入学して母校にお世話になりました。現在は鉄塔技術部に所属し、送電用鉄塔関連の研究・開発の仕事をしております。

送電用鉄塔というと同じような形をしていますので既製品を大量に生産していると思われがちですが、実はオートクチュール、全て単品生産なのです。街中に建っていたり、山奥深いところに建っていたり、構造形式も基本的には柱が4本の四角鉄塔なのですが、一本柱や平面が三角形のものもありと、建設条件は様々です。

市街地の鉄塔は設計事務所と組んで景観を損なわないようデザインをすることもあります。そん

な時は私の部署の出番です。新しい構造形式の場合は耐力の評価方法など不明な点が多いため、実規模の鉄塔(最大高さ100m)を建設して実際に引き倒し実験を行い、耐力等を確かめます。

つまり、如何に安全で、合理的かつ経済的な鉄塔を建設するかを目標に、”壊してなんぼ”を生業としております。



④中西 力 (H5) スターツCAM(株) 免制震構造研究所 「名工大諸先輩と免震とのご縁に感謝」

平成7年1月17日、神戸の被災状況を目の当たりにし、自分の選んだ「構造設計」という仕事の責任の重大さをその4月の入社前に感じたのを今でも鮮明に記憶している。清水建設本社構造設計部に13年半在籍したが、阪神大震災直後ということもあり、入社1年目より「免震」構造の設計に携わることが多かった。一番の思い出は「清水建設研究所・安全安震館」の設計です。清水建設の諸先輩は勿論、第一工房高橋先生や東工大和田先生から、当時35歳の若輩者に対し「建築を創り込む」熱意〜ディテールまでを直接ご指導していただいたことは、私の大きな糧となっている。

その後、Nikon 半導体部門にて「建物・装置の免震・防振・除振」の研究開発に携わり、老舗メーカーでの開発業務や、米インテル・韓国サムス

■関西支部

①宮崎勝秀 (S45) (株)宮崎建築設計事務所

名工大を卒業して44年になります。この10月で66才になりますが、現役で働いています。建築設計事務所を始めて、38年になります。28歳で独立して、紆余曲折がありました。所員17名を抱えて、岡山の地で頑張っています。名工大の卒業のおかげで、全国大手の設計事務所とのJVで、大型物件にも挑んでいます。

振り返ってみると、独立してすぐオイルショックで、自分の非力をいやというほど感じました。技術だけではだめで、経営は、営業と資金力がないと出来ないと悟り、0からのスタートで2年間営業の勉強をしました。「馬鹿になれ」とよくいわれました。山あり谷ありで、うまくいくことは少なく、突き当たるたびに「山より大きな猪はで

②谷垣正彰 (S54) 谷垣工業株式会社 代表取締役社長

学生時代はどちらかというとサッカーと麻雀の日々でありましたが、福知先生に大変お世話になり、無事卒業することができました。同じ研究室から私と森本君の二人が旭化成ホームズ(株)に入社し、私は東京都新宿にある技術部という所に配属され「ヘーベルハウス」の構造担当ということで4年半、神奈川県厚木営業所で工事課として3年半勤務させて頂き、30歳で父の会社を継ぐべく神戸に戻り、そしてしばらくして社長になり現在に至っています。

自社工場で木製家具を作り主に船舶の内装工事をやっていたのですが、当時深刻な造船不況ということもあり、建築内装の仕事も始めました。平成4年に西武百貨店の下請けで清水建設施工の三木市庁舎という大きな現場をやらせて頂いたのが縁

ン等の海外プロジェクトは良い経験となった。

宮城県沖地震後、自分の設計した建物を見て回りました。復旧作業に携わる現場の方々との再交流から再び「構造設計」という仕事に携わりたいという熱意により、現職に在籍している。現在共同住宅を中心に事務所・学校・病院等の「免震」の構造設計を通じて、普及に努めている。清水建設在籍中も現職においても多くの名工大の諸先輩方々のご縁があり、親身にご指導いただき、現在があることに心より感謝しております。



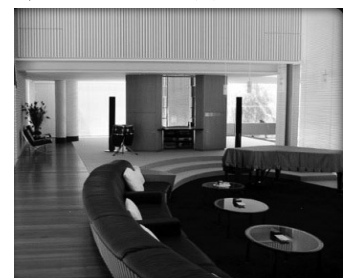
安全安震館(2006)



流山セントラルパーク駅前計画(施工中)

ない」と自分を励まし、言い聞かせて乗り越えてきました。「何事も、コツコツと努力することが大切」と感じています。今では、建築設計・監理は常時20~30物件を抱えて頑張っています。官公庁60%民間40%ぐらいな比率で、地方の事務所なので、住宅から福祉施設・医療施設・学校・文化センター・マンション・リホーム等種類多様な物件をこなしています。業界の役員・司法の調停委員・専門委員等また高校・大学の母校の役員等、社会にお役に立つことは、すなわち自分を生かす道と心得て、出来ることは引き受けています。そろそろ、後継者に譲って、引退との声もありますが、気力の続くまで頑張ろうと思っています。

で、まもなく清水建設から直接仕事を頂けるようになり、今ではほとんどレギュラーで神戸支店の現場の木工事、家具工事をさせて頂いています。ひとえに清水建設におられる諸先輩方のご支援によるものと感謝しております。今は全くアカデミックではない、どちらかと言うと家具インテリアというデザイン指向の強いものづくりを仕事にしていますが、清水建設の仕事をさせて頂いているおかげで、比較的大きな、時には有名な建築家の作品の一部を作らせて頂いているので、名工大建築学科卒業生としてはけっこう満足しています。



③関根秀一郎 (S55) 旭化成ホームズ(株) 設計本部 西設計センター

昭和 55 年に旭化成ホームズに入社しました。当時プレハブメーカーは就職先として、見向きもされていませんでした。日本の住宅は木造が主流で耐火耐震耐久性が不十分でしたので、基本性能をもっと向上させたいと願い、敢えてこの会社を希望しました。

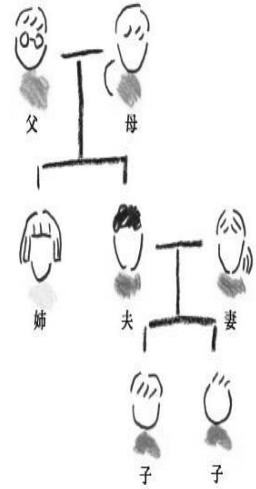
今はご存じの方も多いと思いますが、入社時知名度は低く、旭化成の繊維会社が住宅を販売しているのかとよくお客さまに言われました。

販売しているヘーベルハウスは、ヘーベルというALC板と鉄骨で構成され、耐火・耐震・耐久性等の優れた特性があります。阪神大震災時には一面焼け野原にヘーベルハウスが一棟のみ焼け残り、耐震耐火の性能が証明されました。

この商品の優れた特性を武器に、バブル崩壊、リーマンショック等ありましたが、おおむね順風満帆で、私も当初からの願望である住宅の性能向上に少なからず貢献できたのではないかと感じております。最後に当社が初めて提案する 2.5 世帯住宅という新しい住まい方をお知らせします。

What is 2.5 世帯住宅?

それは、親世帯と子世帯と兄弟姉妹も暮らす、新しい二世帯住宅。



2.5世帯住宅とは
親世帯と子世帯、そして親世帯にいる
単身の子(子世帯夫婦の兄弟姉妹)も
一緒に暮らす二世帯住宅の発展型。
家族が多いから楽しいことは自然に増え
大変なことは自然に薄まる、
いいことづくめの住まいです。

④寺田憲二 (H3) 大阪ガス(株)

学校を卒業してから早や22年、いつの間にか、会社の中でベテランの中核となってしまいました。

現在の仕事は、都市ガス会社で地方自治体に対し、環境・エネルギーをはじめとしたさまざまな地域課題に対する提案・提言という、建築とはほど遠いエネルギー会社ならではの仕事にはまり込んでいます。

ここ2~3年、社内の大先輩にお誘いいただき、光鯨会関西支部の定例会に参加するようになりましたが、若手が少ないため、毎夏、研究室のOB会で関西勤務の後輩に、光鯨会への参加を呼びかけていますが、なかなか若手の参加につながっていません・・・。

エネルギー会社に居ながらも、8年ほど前に、会社の新規ビジネスとしてコーポラティブハウス事業を立ち上げ、そのコーディネーターとして2年半、お客さまのお住まいの自由設計をサポートしてきました。それがきっかけで、自宅を自分で設計しようという想いが強くなり、4年ほど前に中古マンションを購入し、住戸内全体をリノベーションして、現在も、妻と共に一緒に快適に暮らしています。



自宅リビング

築40年のマンションもリノベで部屋の中は新築以上の快適空間に

III 光鯨会支部は今

■会長挨拶

会長 岡本賢 (S39) (株)久米設計



毎年多数の学生が卒業して光鯨会に入会してきます。最近特に女子学生が多く光鯨会も華やかな感じになって御同慶の至りです。

残念ながら若い人達は矢張り会の様々な企画には参加してもらえず総会等も比較的高齢の男性社会となっていますが将来はその姿も変わってくる事を期待しています。

名古屋が本部機構となり、関東から東を関東支部が、関西から西を関西支部が束ねる事になって、全国に散らばる卒業生が早く緊密に連絡がとり合える様な体制が出来、互いに交流が活発になる事を願っています。それが会員の自覚と会費納入率向上に繋がると思います。一つの学び舎で青春の一時期を過ごしたあらゆる世代の人々が、その記憶を共有して緊密な交流を計り、職場でもコミュニティでも分け隔て

なく語り合える事が、このような会の最大のメリットであり、楽しみでもあります。

光鯨会創立 100 周年を記念して始められた鈴木禎次賞は隔年で行って来ましたが、今年はその該当年に当たります。

毎年卒業生の素晴らしい作品が入選しています。本校卒業生のレベルの高さを実感させられます。毎回ゲスト審査員として有名建築家に参加して頂いています。今回は隈研吾氏が審査員になり、その後の表彰式、講演会等をお願いする予定です。是非多くの作品を応募して頂ける様にお願いいたします。

現役の学生にも多くの刺激を与える良いチャンスだと思います。

日本経済も明るさを増し、皆様の業績が発展される事をお祈りしております。

本部/〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学建築・デザイン工学科 (052-735-5517)
会長 岡本賢 (S39) 幹事長 水谷章夫 (S51)
連絡担当者 井戸田秀樹 (S58)

■本部だよりー副幹事長 杉戸厚吉 (S53) 地域問題研究所

総会・見学会の報告



去る5月17日に、春の見学会、評議会・全体総会・中部支部総会・中部支部見学会、そして新入会員を交えての懇親会を、名古屋ガーデンパレスホテルで開催されました。

春の見学会は、31名の参加により「都心地区の再生プロジェクト」をテーマに、タワークレーンによるブロック解体工法による名古屋東京海上日動ビルディングの解体・建替事業と名古屋センタービルの大規模改修事業を、竹中工務店の岡田秀明氏 (S63卒) より説明を受けた後、名古屋を代表する織維問屋街・長者町の再生に向けた取組の説明と見学を行いました。

当日は、気温が高く心配しましたが、長者町のまちづくりを支援している「NPO法人縁側育み隊」事務局お二人の熱心な説明もあり、楽しく



まち歩きができました。

今後、古い建物の建替え、改修・再利用が各地で課題となりますが、今回の見学会では、建築技術の面と建物を活用する住民の取組の両面から、最近の動向を知ることができました。

また、総会に続いて開催された懇親会は、大学院生7名を加えた約100名の参加により、年代を超えた会話で盛り上がり、盛況裏に開催できました。

今年度も、11月にOB交流会の開催を予定しており、OBと現役学生との交流機会の充実を図っていきます。OBの皆さん、母校の発展と後輩のために、ご協力とご参加をよろしくお願い申し上げます。



■関東支部だよりー支部長 吉井正行 (S58) 清水建設(株)

支部長ご挨拶と総会・見学会の報告

関東支部では4月17日に支部役員会を開催し、平成25年度の支部役員を決定しました。関東支部は2年ごとに役員の変更を行い、ゼネコン5社持ち回りで支部総会等の幹事を行っています。今年度と来年度は(株)大林組からの引き継ぎで清水建設(株)が幹事となり、私、吉井が支部長を勤めます。2年間よろしくお願いたします。

さて、当日の支部役員会では、昨年度に引き続き名古屋工業会支援のために、11月に開催される名工会関東支部総会に支部役員から10名出席することにいたしました。今後とも名工会の支援を続けていこうと思っています。

私自身のことを振り返ってみますと、1979年4月に名工大建築学科に入学しました。共通一次元年です。当時、建築学科科会という学生主催の会があり、年1回、工大祭時の建築展の主催や、有名建築家をお招きし講演会を開催するなど活発な活動をしていました。私が代表だった学部4年生の時に、学内外の方々の協力により、代々木のオリンピック体育館や東京カテドラルを設計された

構造家の坪井善勝先生を講演会にお招きし、2時間の予定が4時間に及ぶ大講演会とすることができたことが思い出されます。

1985年に清水建設(株)に入社し25年間

構造設計に従事し、3年前から、現部署に異動し、設計部での経験を生かして、顧客のためになるVEとコストダウンにかかわる仕事をやっています。

今年の関東支部総会は、11月22日(金)に例年どおり大手町サンケイプラザで開催予定です。首都圏の住宅事情から他支部のような土日を利用した見学会などを実施しにくいいため、年1回の総会が関東支部唯一の行事となっています。新入会員を含め若い皆様の積極的な参加を期待しています。



〒105-8370 東京都中央区京橋2-16-1
清水建設(株) (03-3561-1111(代表))
支部長 吉井 正行(S58) 副支部長 永田 敬雄(S45)
副支部長 鹿島 孝(S59) 連絡担当者 大柳 聡(H18)

■関西支部だよりー支部長 千葉耕作 (S50)

支部長ご挨拶と総会・見学会の報告

関西では、今年は4月26日に梅田JR貨物ヤード跡地にグランフロント大阪「うめきた」がグランドオープンし、6月13日には、阿倍野ハルカスの百貨店(60Fの内地下~14Fまで)がオープンし、大阪きた大阪みなみ阿倍野と活気を帯びてきました。このフォローの風に乗って我々光鯨会関西支部活動も会員皆様と一緒に活性化を図って行こうと思いません。さて、上半期の活動報告と下半期の活動計画をご報告します。

2月から10月の隔月第一金曜日18:30から堂島の中央電気倶楽部214号にて定例会を開催。詳細は以下の通りです。

- ・第1回定例会 2月1日(金) 講師:永野氏(竹中工務店作業所長) 演題: グランフロント大阪プロジェクトの紹介
- ・第2回定例会 4月5日(金) 講師:片岡氏(Y40 ESC建材) 演題: 1. セメント系地盤改良について 2. 近畿地区のコンクリート用骨材の現況について
- ・第3回定例会 6月7日(金) 講師:

稲葉氏(AH2 大林組) 演題: 念仏宗「佛教之王道」建設について

・第4回定例会 8月2日(金) 講師:永田恵子氏(東工大内藤研H5 現在:名古屋工大若手研究イノベーター養成センター) 演題: 日本の伝統家具調度の設計論について

・第5回定例会 10月4日(金) 講師:馬場氏(A48) 演題: 吉野の木材でつくる住宅

定例会は、あと8月と10月の2回ですが、11月に関西支部総会が光鯨会全国大会を兼ねて行われます。会員の皆様の参加をお待ちしております。最後に、光鯨会全国大会・関西支部総会懇親会の概略は以下の通りです。皆様 奮って参加願います。

・開催日: 11月30日(土)13時~20時

・会場: 国立京都国際会議場(宝ヶ池)

ROOM C1会議場 宴会場スワン

・講演: 伊勢神宮・出雲大社の遷宮の歴史と意味

・講師: 黒田龍二(S53) 神大教授(日本神社建築史)

〒604-8083 京都市中京区三条柳馬場東入ル中之町10
(株)京都建築事務所 常務取締役宮本和則(075-211-7211)
支部長 千葉耕作(S50) 副支部長 吉良和晃(S50)
連絡担当者(事務局長) 宮本和則(S55)